

## TEMM14 学生フォーラム要約

(大臣会合への結果報告 (仮訳))

私達は、日本・韓国・中国からの若者の代表として、この第 14 回三カ国環境大臣会合の学生フォーラムに集いました。フォーラムの間、私達は 2 つのテーマに関して意見交換を行いました。1 つ目は、若者が取り組む環境に配慮した行動について、2 つ目は持続可能な開発とグリーン経済を促進するための若者の役割です。学生を代表して、今回の学生フォーラムの要約を発表させていただきます。

まず、テーマ 1 の若者が取り組む環境に配慮した行動についてです。このセクションでは、日本・韓国・中国からの代表学生が発表を行い、三カ国各国で若者が展開している様々な経験を共有しました。

日本の代表学生からは、5 つの環境活動が紹介されました。それらは、大学内、地域的、国際的な活動の 3 つに大別されます。大学内では、放置自転車に対処する取組やキャンパス内での節電の取組が行われています。地域的な取組では、日本人の若者が、自然に根差した地域生活を活性化するため、都市から過疎地に移動し農業や、林業に携わる活動が支持されています。国際的なレベルでは、環境問題解決に向けて、国内のみならず、国際的に人々をつなぐ例としてエコ・リーグや、北東アジア学生ラウンドテーブルの事例が挙げられます。

韓国の代表学生からは、4 つの事例を通じて環境に配慮した行動が紹介されました。韓国の若者は、温室効果ガス削減策として、「1 週間肉を食べない活動」(Meat Free 7 Days) を通じて食肉を消費する習慣を変えていこうとする取り組みを行っています。また、「お茶碗をからっぽにしよう (Empty Rice Bowl)」運動を通じて、残飯

を減らすことを提唱しています。さらに、韓国と北朝鮮の境界線にあたる非武装地帯（DMZ）での生物多様性保全活動にも積極的に参加しています。グリーンエネルギータウンプログラムの事例では、エネルギー消費を削減するため、低所得世帯に対して冬場のエネルギー供給の補助を行うよう、韓国の学生が企業に呼びかけています。

中国の代表学生からは、「青年環境友好使者（EFYAs）」活動を通じた環境に配慮した行動が紹介されました。中国の若者は青年環境友好使者として二酸化炭素削減や日常生活における汚染を減少させるのみならず、家族・友人・学内の人々・政府・地域社会・企業等とともに、環境に関する知識や気づきを共有するための努力をしています。若者の環境配慮行動を促進するためには、創造力と影響力が重要であることが強調されました。中国の若者の創造力を示す一例として、COP17にて上演された環境劇「私たちは皆同じ船に乗っている」が紹介されました。影響力を示す例としては、中国の若者はWWFのアース・アワーに関連した学内活動や「母なる川を守ろう」プログラム（Our Mother River Program）に積極的に参加しています。

続くテーマ2では、いくつかの問いに答えるべく、参加者全員が深い議論を行いました。そして、教育、コミュニケーション、リーダーシップという3つの側面において様々な解決策を提案しました。

まず1つ目の問いは、「教育・コミュニケーションの分野で、私たちに何ができるか」というものです。

教育という側面では、まず自分達が自ら持続可能な行動の実践者となるべく教えあい、より積極的な活動を行うことができます。それ以外にも、周りの人に教えたり、お年寄り・子供やすべての市民とともにスキルや知識を共有することができます。さらに、若者がア

ジアのいたるところに情報を広めることも可能です。教育を通じて、若者は公衆の環境意識の向上を図ることができるのです。

また、若者は持続可能な開発とグリーン経済を促進するためにコミュニケーション手法が重要であることを認識しています。ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）の利点を生かすといったことや、日本・韓国・中国におけるデータ情報の共有と強力なコミュニケーションの絆を持続するための新たなウェブサイトを構築することもできます。

2つ目の問いは「グリーン経済に若者がどう貢献できるか」というものです。

若者は環境に配慮した製品を作る仕組みを支持しています。例えば、グリーンエネルギーで製造されたタオルなどのような日本のオーガニック製品、韓国における低炭素グリーンラベリングプロジェクトや中国の環境ラベリング製品等です。卒業した後、若者は環境に優しい取り組みを行っている企業への就職を選択したり、自分で環境ビジネスに取り組むこともできます。私たちは、企業が全社的にエネルギーや紙を削減し、グリーン製品の製造に取り組める指針を示せるようになりたいと思います。その他にも、環境に配慮した消費行動や、不要になった素材をアート等のクリエイティブな形に変えてリサイクルすること、環境に配慮した習慣を育むこと等が挙げられます。

最後に、日本・韓国・中国の参加学生からの提案を述べさせていただきます。

これらの解決策をスムーズに達成するために、若者は国内外において企業や政府、その他の組織からの支援を必要としています。企業と若者は CSR の仕組みを利用して、環境配慮行動を促進させるた

めに協働することができるでしょう。

私達、参加学生は皆、TEMM14にて、お互いの経験を共有し学びあうことのできる、このような素晴らしい機会を与えてくださったことに、心から御礼申し上げます。私達はまた、深い議論を通じて、文化的相違や誤解を乗り越え、互いに理解しあうことの重要性を学びました。学生フォーラム終了後も、参加者同士のつながりを保ち、公衆に対して、環境に良いアイデアを広めていきたいと思います。より重要な点として、私達には議論のための時間が限られていたために、机上での解決策を導くに留まりました。そのため、様々な意見を交換したり、例えば政府間の交流プログラムなど、実践的かつ職業的な研修を得るといったことを通じて、当会議での成果をより実践的なものにしたいと思います。

報告は以上です。ありがとうございました。